

# 中ノ沢

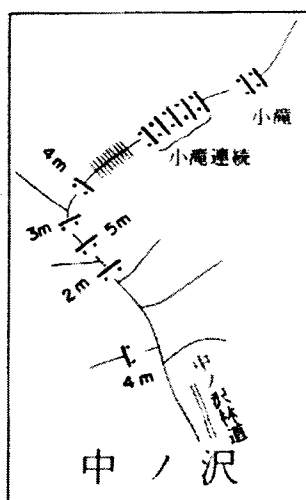
シマ

一九八四年七月二一日

シマ

一二時昼食ののち、下降開始。稜線の踏跡から一〇分程で中ノ沢源頭に出る。大きなシダが生い茂り、ひよいと小人などが出てきそうな幻想的雰囲気。

一五分程下降すると、小滝が続き快調。しかし、水がとても冷たく感じられる。湧水地点がいくつかあったが、そのせいだろうか。



その先、二つ二段滝を越えると、

五つ六つの滝が連続し、その後も小滝をまじえたナメが続いて楽しい。

一二時四〇分最初の支沢が右岸から合流。本流には二つ五つの滝が続き、五本数えた支沢の位置をそのつど地図で確かめながら下降を続ける。

一三時三〇分左手に見えてきた林道に上がる。このあたり林道は荒廃

しているが、昔はトロッコが入っていたそう。この先一〇分程進んだあたりからは道らしくなり、車も通れそう。

林道を歩いていくうち、しよぼつ

いていた雨が少しづつ強くなってきて、摺上沢に入った穴戸・佐藤パーティがデポしておいてくれた車を発見したと思ったらザーとやってきた。急いで車に駆け込んで中ノ沢の下降を終了とする。(記)

「タイム」 下降開始(一二:〇〇) ↓  
下降終了(一二:三〇)

# 摺上沢

シマ

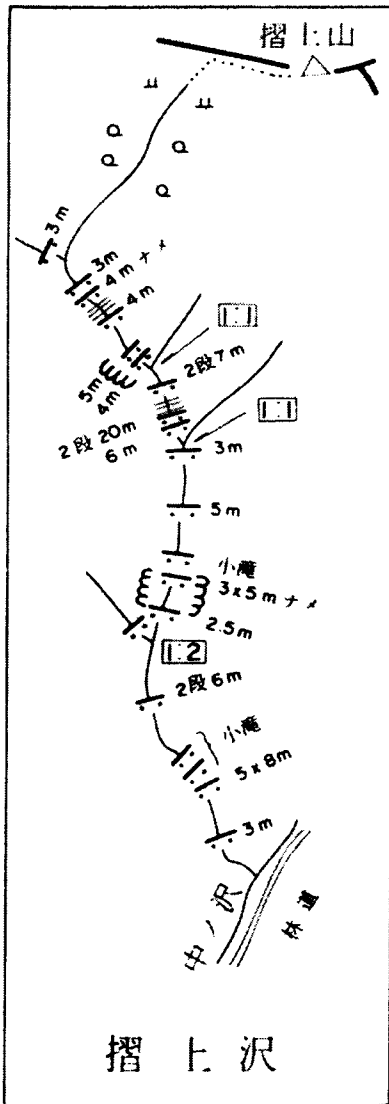
一九八四年七月二一日

出合は、両岸よりヤブがかぶさる、

小さな沢である。歩き始めると、す

ぐ小滝が連続するようになる。そこを過ぎると、平凡な河原状となった。やがて滝となつて二俣に出る。この先は小さなゴルジュを形成し、出口にはナメ滝と小滝をかかえる。滝を二つ越えると二俣となり、滝のある左俣に入る。右俣は平凡な河原状である。

左俣には次々と滝がかかるが、いずれも楽に越せる。源頭部まで続くナメを進み、草付を登りつめると、摺上山東方の稜線に出る。摺上山へ



はヤブこぎで一〇分程であった。

摺上山山頂には、シヤクナゲが

群棲していた。(記、シノゴ)

「タイム」 出合(六:五五) ↓ 二

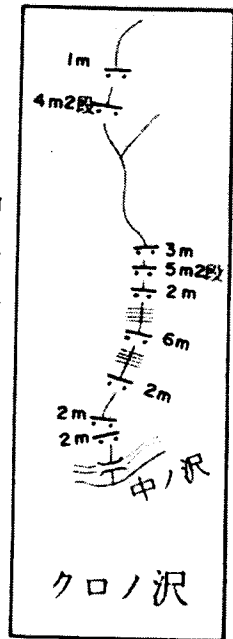
俣(七:三五) ↓ 尾根(九:〇〇) ↓

## クロノ沢

L

一九八四年七月二一日

中ノ沢林道からクロノ沢出合めざして下り、出合でワラジをつける。



遊行をはじめで一五分程で六びつイ状の滝。水量少なく、楽に直登できる。

このあとしばらく小滝が続いたが、左にカーブしたあたりから平凡な沢となった。ゴルジュといえるようなものはないが、兩岸ともヤブが深く、暗い沢であった。

七時四五分、二俣。左俣がヤブで隠されているため、右俣に行きそう